

令和元年度特許情報普及活動功労者表彰

一般財団法人日本特許情報機構理事長賞
【特許情報技術研究功労者】

花王株式会社 知的財産部 戦略情報グループ／アジア特許情報研究会
安藤 俊幸

功績

花王株式会社に入社され、研究所における新規プロジェクト立ち上げの際に、新規参入にあたってのライバル企業等の特許調査を担当し、大量の特許文献を緻密に調査していく業務に従事され、重い重要な調査を大量にこなしていくという作業に非常に苦勞したことから、「効率的に特許調査を行う」ことに大きな関心をもったのが特許情報の技術研究にかかわる最初のことでした。

以来、独学で特許調査や分析、テキストマイニング等を学ばれ、独学の限界を感じて、2006年に情報科学技術協会（INFOSTA）、日本オンライン情報検索ユーザー会（OUG）、「特許マップ研究会」に入会し、桐山氏に師事されました。その後、2011年からはアジア特許情報研究会に入会し、「テキストマイニングを利用した中国文献の解析」等の研究、論文等を執筆されました。

人工知能技術が発展してきた昨今は、これまで研究してきた知識を活かしつつ、さらに、人工知能や機械学習についての研究も進められ、2017年以降、機械学習を用いた特許文献の調査、分類等の各種論文執筆、発表、セミナー講師等を多数務められています。

テキストマイニングや機械学習の適用による「特許情報調査の効率化」は特許情報ユーザーからはもちろんのこと、特許調査サービス提供業者からも注目を浴び、株式会社NTTデータ数理システムやアイピーファイン株式会社における勉強会・研究会のアドバイザ役も務めるなど、特許情報の普及・活用に、技術研究の第一人者として多大な貢献をもたらされました。

この度は大変栄誉ある日本特許情報機構理事長賞「特許情報技術研究功労者」の受賞を賜り、まことにありがとうございました。身に余る光栄です。

本受賞にあたり、これまで関わってきた社内外の特許情報関係の皆様へ、深く感謝申し上げます。特にアジア特許情報研究会の皆様には、同研究会のポリシーである「新規性、進歩性のある知財情報研究」と「研究成果は公表する」という方針の元に様々な協力をさせていただきました。

特許調査を担当するようになり調査の効率化を目的に、各種プログラミング言語をOSS（Open Source Software）と組み合わせて活用してきました。最近では人工知能の中心技術である機械学習に取り組んでいます。今後も特許調査の効率化に多少なりとも有用な研究を進め、特許情報活用の普及に努めていきたいと思っております。

